

2016年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 《講義録 3 限目》

《講座のメインテーマ》

犠牲者ゼロを目指す、
地域防災の進め方

記録：講座協力委員 中島光明

◆開催月日：2016年10月20日(木) 13:30～17:00

◆開催場所：KU ポートスクエア



進行：田中喜世美さん

◆本日のテーマ◆ 災害現場に学ぶ地域防災力向上と進め方

・前半：熊本地震に学ぶ災害の現実と、これからの地域防災の進め方

講師：鍵屋 一 氏(跡見学園女子大学 教授)

・後半：マンション住民と事業所を取り込み、地域全体の防災意識を底上げする

講師：増田 智代 氏(神奈川区子安通三丁目自治会 安全対策室長)



講師：鍵屋一氏

前半《熊本地震に学ぶ災害の現実と、これからの地域防災の進め方》

【熊本地震では、新しく課題がクローズアップ】

◇避難所における支援活動、多数の車中泊、トイレ対策など

◇その結果、震災関連死が多かった

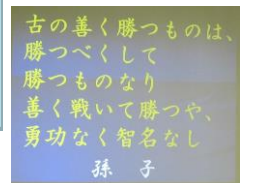
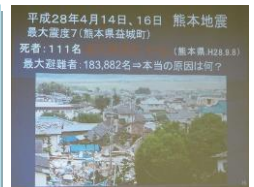
◇特にトイレ問題は、狭い、暗い、汚い。水分摂取を控えると血栓になる。

「東日本大震災の教訓」

◇高齢者が死者の約6割、障がい者の死亡率は2倍、震災関連死が多数

◇自治体職員、消防団員、民生委員、福祉施設や病院関係者の死者が多数

「大震災は忘れない頃にやってくる・・・歴史は繰り返す」



【地域防災の進め方】

●自助は家族会議から！

テキスト：「我が家の防災スタートブック」

- ① 持出し品
- ② 家族の個人情報や連絡先
- ③ 減災対策
- ④ 地震その時の行動例
- ⑤ 地震後は安否確認

●決め手は「ご近所力」・・・

なぜ地域では防災等が進まないか？

- ・町内会・自治会は、親睦が目的で課題解決組織ではない
- ・「上から目線」「いきなり提案」「あるべき論」では、地域には受け入れられない

《まとめ》災害に「も」強い地域

◇地域の市民、NPO、企業の参加意欲増加がポイント

◇要求するばかりで、自ら動こうとしない住民意識の地域は弱い

◇汗をかく人が三人集まると、状況を変えることが可能

◇人を健康で幸福にするのは「良い人間関係」に尽きる



講座の様子

講師：増田智代氏

後半《マンション住民と事業所を取り込み、地域全体の防災意識を底上げする》

・わたしたちのまちは私たちが守る！

モットー：どうしたら人が集まるかを「実際にやってみる」

・町内にある井戸の調査、防災講演会、防災フェア、図上訓練、担架を使った災害訓練

・災害時の協定締結：地域の病院、企業と飲料水提供と体育館使用、プロパンガスの供給、マンションとの津波避難利用、国道沿いマンションと園児・要援護者の一時避難場所

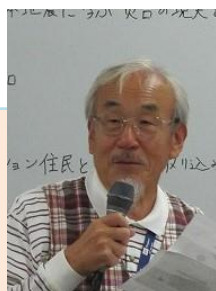
・安否確認用「命のハンカチ」：「大地震発生時の五か条」「自宅を離れる時の五か条」を印刷



第3回アイスブレイク 《防災の常識・非常識》

《田中栄治さん》

「巨大地震の予知は可能か」



《まとめ》

講師：増田さんの心がけ

- ・ひたすら忍耐
- ・思いやりとやさしさを接する
- ・相手の身になって考える
- ・それぞれの役割分担を具体的に
- ・常に「ありがとう」と言う

●受講者：具体的な話で非常に参考になりました



★1995年政府は「地震防災対策特別措置法」を制定し、

総合的に研究活動を推進する「地域調査研究推進本部」を設けた。しかし「地震予知」は、この法律に含まれていない。